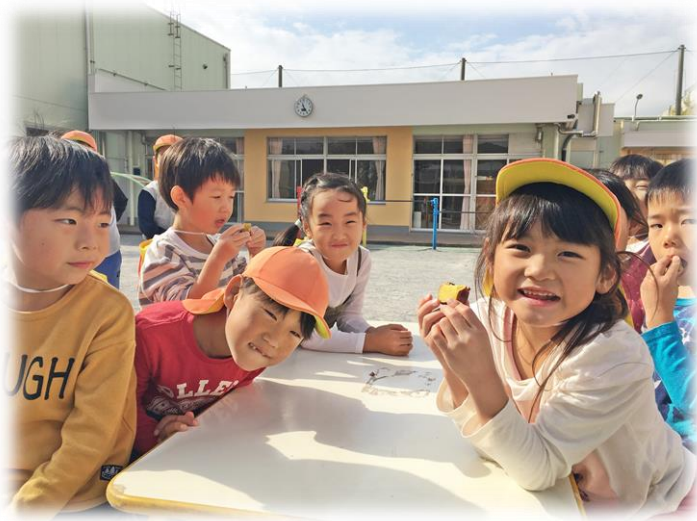




社会福祉法人
発行： えどがわ

東京都江戸川区一之江 3-2-2
発行責任者：法人事務局



2019年12月25日

第26号



のお礼を言ってから、けがの確認をして、「ママも割ったことたくさんあるから今度から気をつけようね」と言ったと聞きました。いきなり叱られるのと、このように言われるのでは子どもの次のやる気につながるのはどちらでしょうか。

しかし、子どもが大きくなる過程で強く注意しなくてはいけないときもあります。赤信号を飛び出す、自他を傷つける恐れがある場合、自分で危険を察知できないような場所に行ってしまったとき、公共の場所やレストランなので走りまわったときなど、その場で注意しなくてはいけないと思います。

この題の後があります。「年寄笑うな行く道だもの」と続きます。人間年齢を重ねると今までできたことができなくなってしまうことがたくさんあります。私自身、10数年前に逆上がりができなくなったり、高いところから飛び降りられなくなったり、食事の時にこぼすようになったり、電車に乗ると席を譲られるようになったり、だんだん子どものときようになってきました。努力して改善されることもあるかもしれませんが、できないことが出てきたことを素直に認めたいと思います。

この題の続きがもっとあるのです。「来た道 行く道 二人旅 これから通る今日の道 通り直しのできぬ道」となります。ときどき思い出してくださいね。



『子ども叱るな来た道だもの』

社会福祉法人えどがわ

理事長 田澤 茂

(江戸川区私立幼稚園協会展長)
(東一の江幼稚園理事長)

大人はいろいろなことができますが、子どもはご飯をこぼす、片付けがうまくできない、着替えに時間がかかる、いたずらをするなど、失敗が多く、何度言われても同じことを繰り返してしまう。これは当たり前です。自分が幼い時のことを忘れて、このようなことが重なると、子どもを叱ってしまうことはないですか。「何度言ったらわかるの!」「同じことを言わせるの!」などと叱ることはないですか。でも、子どもは言われても同じ過ちを繰り返してしまいます。そういうときに同じ叱り方をしてもあまり効果がないと思いませんか。

ある先生がお弁当をこぼした園児に「ここにニワトリさんがいたらおいしそうに食べてくれたのに」と言っていました。こぼしたことを子どものせいにしませんでした。また、ある母親は、子どもがお手伝いをして茶碗を洗って拭いていたときに誤って割ってしまいましたが、取りあえず手伝ってくれたこと

さかせよう みんなの ひまわり

おひさま保育園 22 園で種をまき、成長を見守り続けてきた「ひまわり」。夏には大小さまざまな花を無事咲かせてくれました。高く、大きく成長した花は、頭をもたげて、まるで子どもたちを見守っているようでした。

花びらが枯れて、茶色になると花の中心にはぎっしりと種が詰まっています。子ども達に「種はどこに入ってると思う？」と聞くと、「土の中じゃない?」「葉っぱのところだよ!」といういろいろな意見が次々飛び出します。「正解は・・・お花の中でしたー!!」と話すと子ども達からは「えー!」と歓声がわき、新しい発見に目を輝かせていました。種を取るのには根気のいる作業ですが、小さな手で一つひとつ夢中になって取っていました。各園で種取りをした様子やいろいろな取り組みの様子が届いておりますので、ご紹介します。

種は、子育てひろば等でプレゼントしていきたいと考えております。



区政功労者表彰・東京都功労者表彰

理事長 田澤茂先生並びに評議員 渡部裕人先生におかれましては、長年にわたり東京都の福祉に貢献された実績が称えられ、東京都功労者表彰を受賞されました。副理事長 秋山秀阿先生におかれましては、江戸川区民の区民生活と文化の向上に尽くされた功績が称えられ、江戸川区区政功労者表彰を受賞されました。おめでとうございます。



おひさま会 交流会

11月1日に職員主催のおひさま会 交流会を行いました。職員330名が集まり、ゲームや美味しい食事を囲み、懇親を深めました。



おひさま TOPICS

『遠足』 葛西おひさま保育園



5歳児の秋の遠足に船橋アンデルセン公園へでかけました。運動会が終わり、子どもたちから「遠足はいつ？」という言葉が多く、それまでの毎日を楽しみにしていました。天候にも恵まれ、いざ出発！公園には動物との触れ合い広場もある。

り、写真のような山羊を身近に感じ、あたかも決闘を申し込むような姿が子ども達の大好きな絵本「三匹のヤギのがらがらどん」のようでした。アスレチックの広場では、はじめ楽しむことのできない子どもに対して、友だちが手を繋ぎ誘ってくれ「一緒にやろう！」の一言に躊躇していた気持ちが吹き飛び、笑顔で駆け出していく姿に、子ども達のパワーや可能性は無限大だと感じました。

子ども達には実際に体験し「出来た！」という達成感を感じられるよう、それが大きな自信につながるよう、保育を行っていく必要を感じました。

副主任 山口 雪美

おひさま TOPICS

『運動会』 東小松川おひさま保育園



秋晴れの下、運動会が開催されました。園長として異動後、初めての運動会。ワクワクと心が弾むようでした。当保育園では保護者会が中心として活動している「ひだまり会」と一緒に計画や準備を行い、競技と一緒に参加していただくという慣例があります。特に年長組親子競技の騎馬戦で

は、保育園で親子としての最後の競技ということもあり、準備の段階から、保育士と一緒にお面を企画、制作し参加・・・、競技が終了後に保護者の方からサプライズとして、ポケットからカップが出てきて、「仲直りをしましょう」の掛け声とともに、全員で乾杯する姿に、職員の中から光るのが見られました。他にも、綱引きでは職員と一緒に保護者の方が鉢巻を巻き気合い充分、保護者の方の司会と一緒に競技を盛り上げた1コマでした。

真夏のような暑さの中子どもを中心とした、保護者と職員の一体感のある、心に残る運動会でした。

園長 小笠原 晴子

おひさま TOPICS

『熟年者交流会』松島おひさま保育園



熟年者交流会を行いました。毎年、クラスごとに子ども達が日常、保育園で過ごしている姿を見ていただき、保育園での遊びを一緒に楽しんでもらうプログラムです。数日前から子ども達はこの日を心待ちにし、大好きな祖父母の方に絵本を読んでも

らい、一緒にパズルやおままごとをし、部屋中に笑顔があふれ、ほのぼのとした時間が流れていました。また、ホールでミニ発表会を行い、クラスごとに手遊びや歌、ダンス等の発表を行いました。乳児のあどけない可愛らしい姿から年齢が上がるごとに少しずつ成長していく保育園での姿を見ていただきました。

お孫さんを見守る祖父母の皆様の優しい眼差しに、ホール全体が温かい雰囲気になられ、毎年の熟年者交流会を楽しみにして下さっている方や遠方からお越しになる方も多く、子ども達はもちろん職員にとっても、楽しくほほえましい1日でした。

園長 守田 真由美

おひさま TOPICS

『エドレンジャーがやって来た』北小岩おひさま保育園



11月8日、北小岩おひさま保育園にエドレンジャーが来てくれました。戦隊シリーズが好きな年頃の子供達にとっては、数日前から楽しみにする声と悪役の登場に不安を抱く、一喜一憂の声。

当日を迎え、子ども達は門で待ち伏せをしエドレンジャーを待つ子ども達。悪役が来

ていないことにホッとし、輝くヒーローの登場に子ども達の表情も一気に輝き、喜びの笑顔に変わりました。声をかけたり抱きついたり大喜び！！練習を重ねたエドレンジャー体操、動きも歌詞も楽しく踊りやすい曲調に子ども達もすぐ虜になり、目の前で一緒に体操を行うエドレンジャー達に目を奪われながら“一緒に踊れる”ことを喜び、子ども達の動きも練習時より生き生きしていました。

数日経った今でも子ども達のブームは健在！！歌を口ずさみ、時折エドレンジャー体操を踊っています。

保育士 君塚 優子



法人給食だより

安心・安全な給食ができるまで

おひさま保育園の給食は安心・安全で美味しい手作り給食をモットーにしています。さまざまな食材や味・調理法により、味覚の体験を増やし、好きな食材が増えるよう考えています。今回は法人給食ができるまでをご紹介します。

①献立作成・発注

季節に合った旬の食材で栄養バランスの良い献立を考え、人数に合わせて過不足がないよう食材発注をします。



②納入業者

徹底した品質管理された生産者や加工業者から安心で安全な食材を仕入れ保育園に届けられます。

③検品

運ばれてきた食材は給食で使用するのに適切かを確認します。



⑤検食

異物が混ざっていないか、味や見た目、大きさは適切かなどを園長が確認をします。



④調理

衛生に十分注意し美味しくて安全な給食を食べてもらえるよう、心を込めて調理します。また、食材自体の美味しさが味わえるように薄味に心がけています。



⑥準備

給食室は調理した給食を年齢に応じて量や形態に配慮し、見た目に美しく、食欲が増すよう工夫して盛り付けます。保育室では清潔な喫食環境を整え食べる準備をします。



⑦給食時間

保育室では美味しく楽しく食べているか、事故が起こらないかを注意して見守ります。



⑧片付け

使用した食器や調理器具を洗ったり、破損や故障がないかの確認を行います。



平均カロリー
3歳未満 470 kcal
3歳以上 580 kcal

リレー随筆



先日、3歳児の歩き遠足で、葛西臨海公園内の水族園

内で魚釣り遊びが出来るようにと事務所に準備されていました。事務所にやってきた子どもは、その光景を観て、目を輝かせながら「アジはいるの?」と声を弾ませ魚の話が始まりました。話を聞くと、ご自宅で魚の図鑑を見ては正式名称を覚え、大人顔負けの博士ぶりの様子とのこと・・・。

南葛西おひさま保育園は区内の最南端に行く予定でしたが、子ども達は散歩で海や魚を身近に感じ、毎日を楽しんでいることから、このような興味が生じたのではないかと感じました。

子ども達の興味も様々。「みんな違ってみんないい」、一人一人の好奇心や関心ごとを大切にしながら、一緒に寄り添い向き合っていきたいものです。

出来事です。

当日の雨を残念に思った3歳児が登園時に朝の挨拶を兼ね保護者と一緒に事務所にやってきました。当園では雨天の中止プログラムとして「遠足ごっこ」と称して、保育園

子ども達の興味も様々。「みんな違ってみんないい」、一人一人の好奇心や関心ごとを大切にしながら、一緒に寄り添い向き合っていきたいものです。



南葛西おひさま保育園 園長 榎本 明子

保護者のみなさまの声

春江おひさま保育園では、園庭にりんごや柿の木があり、畑で野菜を育てたりしています。自分が田んぼや畑での作業を身近に育ったので、子どもにも同じ経験をさせたいと思いながら、なかなか出来ないのですが、保育園で季節毎に自然と触れ合う経験をさせてもらえてとても感謝しています。先日はお芋堀りの様子を嬉しそうに話してくれました。近年は毎年のように各地で豪雨や台風の被害があり、その他にも温暖化の影響とされる自然の変化が多く指摘されています。これから子ども達が育っていく地球を守る必要性を感じると同時に、子ども達自身が自然との触れ合いを通して自然を大切にし、感謝する心が育まれるといいな、と思っています。 春江おひさま保育園より

1歳児の中でも早生まれの我が子は、入園したばかりの頃、泣いて、泣いて、迎えに行くといつも先生に抱っこやおんぶをして貰っていました。今では朝は走って中へ入り、夕方はなかなか帰りがらず靴を履かせるまでが一苦労です。毎日楽しんでいる様子を見ると保育園に入れて良かったと心から思います。息子と一緒に歩いていると、気付く事が沢山あります。家から保育園までの道には沢山の花が咲いていること、救急車は時々「ピーポー」だけではなく「ウー」というサイロも鳴らしていること、「パッ」と言われて空を見上げたら三日月が浮かんでいることもありました。すれ違う方に温かい言葉をかけて頂くことも多く、歩いているだけで笑顔になります。子育ては教える事ばかりだと思っていたのに実はこちらが教えられることの連続です。これからも子育てを通してかけがえのない時間を一緒に楽しみたいと思っています。 西葛西おひさま保育園より



今年はラグビーワールドカップ、盛り上がりましたね。社会福祉法人えどがわも職員一同「ONE TEAM」で江戸川区の子どもたちのために頑張っていきます!

